

[成果情報名] 伊豆地域におけるオリーブ生産の実態と経営試算

[要 約] 搾油用オリーブ栽培において、カンキツ栽培と同程度の所得（33.5 万円／10a）を得るためには、単価 3000 円／100ml で販売する場合、10kg／樹の収量が必要であり、現状はこれの 1／3 程度である。

[キーワード] オリーブ、収量、収穫作業時間、経営試算

[担 当] 静岡農林技研・伊豆研セ・生産・加工技術科

[連絡先] 電話 0557-95-2341、電子メール agriizu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 果樹

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

オリーブの栽培面積は、伊豆地域をはじめとした県内各地で増加傾向にあるが、その生態的特性や経営収支については明らかでない。そこで、オリーブの栽培および経営に関する基礎的知見を得ることを目的として、伊豆地域のオリーブ栽培園地における現地実態調査と経営体への聞き取り調査を行い、調査結果に基づく経営収支を試算する。

[成果の内容・特徴]

- 1 伊豆地域で栽培されるオリーブ 8 品種の樹高は 2.6～3.8m であり、樹幅は 2.7～4.0m である（表 1）。
- 2 漬物用最も収量が多い品種は‘マンザニコ’で、その収量は 3.8kg／樹であり、搾油用品種では‘ペンドリーノ’で、3.2kg／樹である（表 2）。
- 3 収穫作業効率は、搾油用品種に比べて漬物用品種で高く、平均果実重が大きいためと考えられる（表 2）。
- 4 漬物用品種では台風によるすれ傷とみられる傷果の発生割合が高く、正品率が低下することから安定した経営は難しいと考えられる（図 1）。
- 5 搾油用オリーブを栽培し、収穫した果実からオイルを搾って自ら販売する形態での経営収支を試算すると、植栽本数を 50 樹／10a とし、収量が 10kg／樹で、かつオイルを 3,000 円／100ml の単価で販売した場合の農業所得が 31.2 万円／10a となり、伊豆地域におけるカンキツ栽培の農業所得と同程度となる（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 経営試算では、収穫期である 10～11 月に収穫と選果の作業が集中するため、雇用者の確保が重要であるとともに、収穫効率を高める作業方法の検討が必要である。
- 2 試算では、インターネット上での販売を想定しており、自ら販売促進を行い、販路を確保する必要がある。

[具体的データ]

表1 オリーブ8品種の樹高および樹幅

用途	品種	樹高 (m)	樹幅 (m)	樹冠面積 (m ²)	樹容積 (m ³)
漬物用 (10年生)	マンザニコ	3.2	3.2	8.3	22.9
	ネバディロブランコ	3.6	4.0	12.6	40.8
	ミッション	3.8	3.2	8.1	28.2
	ピクアル	3.0	3.2	8.2	22.1
搾油用 (7年生)	レッチーノ	3.0	3.0	7.2	19.3
	レッチョデルコルノ	2.6	2.7	5.6	13.1
	ペンドリーノ	2.7	2.9	6.5	15.4
	フラントイオ	2.9	2.7	5.7	14.5

表2 オリーブ8品種の収量および収穫時間

用途	品種	収量 (kg/樹)	収穫果実数 (果/樹)	平均果実重 ² (g/果)	収穫時間 (分/樹/2人)	収量作業効率 (kg/h/人)
漬物用 (10年生)	マンザニコ	3.8	1111	3.4 a ^y	18.3	5.8
	ネバディロブランコ	1.7	608	2.6 b	10.1	5.1
	ミッション	2.7	1143	2.8 b	17.5	3.7
	ピクアル	1.8	682	3.9 a	15.4	5.1
	有意性 ^x	n. s.	n. s.	**	-	n. s.
搾油用 (7年生)	レッチーノ	0.7 b	698 b	0.9 a	11.8	1.4
	レッチョデルコルノ	0.5 b	401 b	1.2 a	6.5	2.3
	ペンドリーノ	3.2 a	3629 a	0.9 a	32.4	3.2
	フラントイオ	0.1 b	79 b	1.3 a	2.0	1.5
	有意性	**	**	*	-	n. s.

² 収量/収穫果数

^y Tukey検定により、同一アルファベット間には5%水準で有意差なし

^x 分散分析により、**は1%水準で、*は5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なし

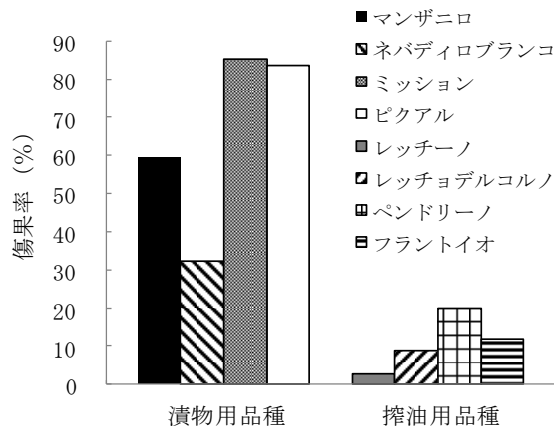


図1 オリーブ8品種の収穫果実に占める傷果の割合

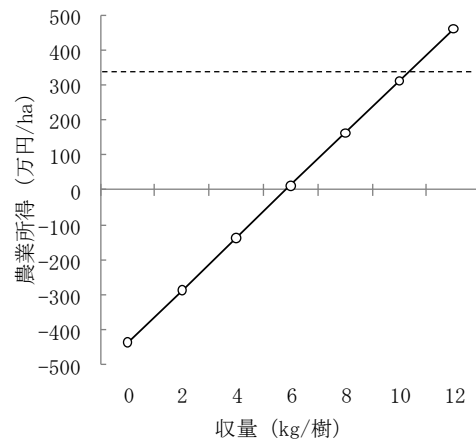


図2 オリーブオイルの販売単価を3,000円/100mlに固定した場合の収量と農業所得の関係
オリーブオイルの搾油率は5%と仮定
図中の破線は柑橘栽培の農業所得(335万円/ha)を示す
農業所得算出時の経営費は、臨時雇用労賃を含めて算出
(本人と臨時雇用ですべての労働時間を確保し家族労働力はなし)

[その他]

研究課題名：伊豆の多様な販売形態に利用できる果樹品種の選抜

予算区分：県単

研究期間：平成28～令和2年度

研究担当者：浜部直哉

発表論文等：浜部直哉・前田未野里・種石始弘. 2020. 伊豆地域におけるオリーブ8品種の生育、収量および作業時間. 園学研. 19 (別1) : 275.